

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	日清製粉プレミックス株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都中央区日本橋小網町19番12号
工場等の名称	日清製粉プレミックス株式会社 名古屋工場
工場等の所在地	名古屋市中川区長良町1-1
業 種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	業務用プレミックスの製造
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年6月7日 ～ 令和6年9月5日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 名古屋工場 事務所 窓口
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-361-8164		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

日清製粉・日清製粉プレミックスの名古屋工場は、小麦粉及びプレミックス製品の生産活動において、環境負荷を少なくするため「私たちは『健康で豊かな生活づくりに貢献する』ことを理念とし、その基となる地球環境の維持・向上に努めます。」をスローガンに環境活動を推進します。

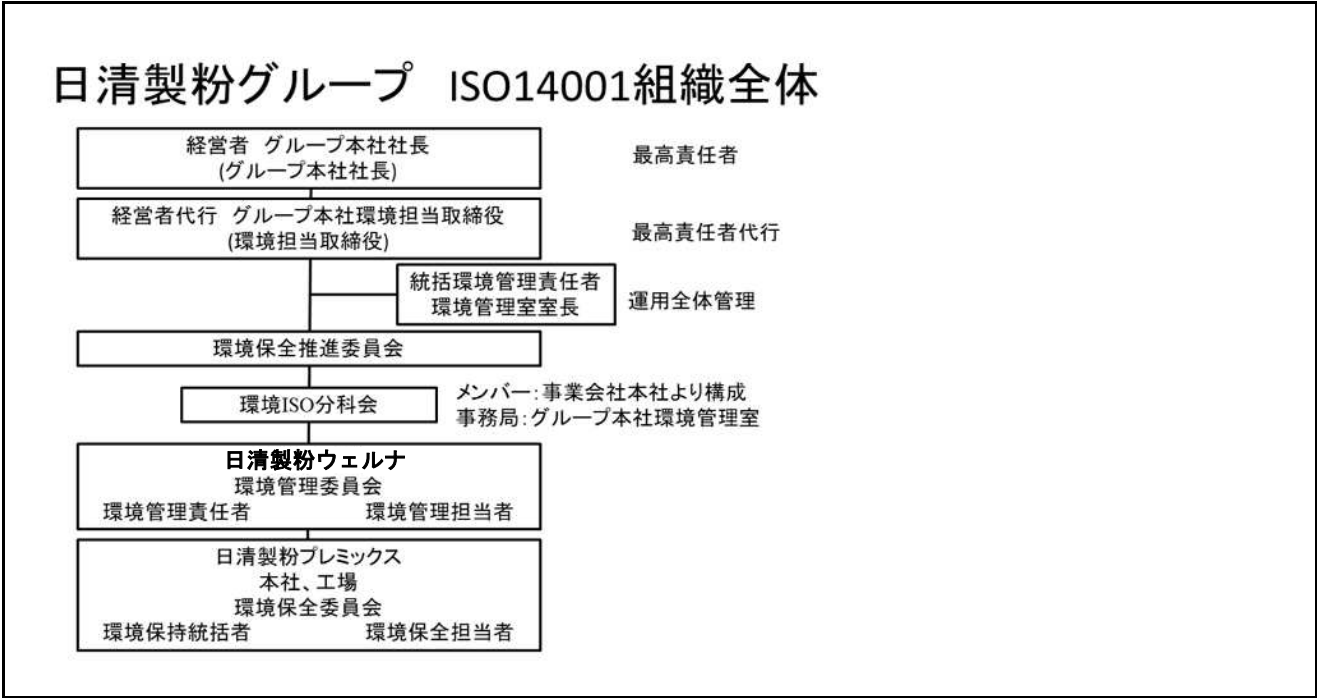
①法規の遵守
国や地方自治体が定める環境法令・規則、その他要求事項を遵守し、環境保全に努めます。

②環境負荷の低減
当工場の生産活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクルを通して環境負荷の低減、及び大気・水質・土壌汚染の予防に取り組みます。

③管理体制の整備
環境目的・目標を設定し、定期的な見直しを行いながら、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

④環境方針の公開、及び全員参加による推進
環境方針の公開を通じて、全員参加の取り組みによる従業員の意識・モラルの向上を図り、環境活動保全活動を推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,850	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換排 算）出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1,850	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量	1,913	t-CO ₂	1,884	t-CO ₂	1,887	t-CO ₂	1,850	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			1.5	%	1.3	%	3.3	%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量									
削減率（対 基準年度）				%		%		%	%
原単位あたりの みなし排出量									
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

総排出量が基準年度比3.3%減で目標達成。
2024年1月より、一部の製品を他工場に移管したことで、電気・ガスの使用量が減少。一方で多品種小ロット生産の増加に伴い、生産効率の悪い製造ラインの使用機会は、年々増加傾向にある。引き続き、高効率なエアコンへの更新や照明のLED化を継続して実施する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理	・環境マネジメントシステムの維持、向上 ・エネルギー使用量の把握、分析 ・CO2排出量の把握、分析	・ISO14001の維持による、環境施策の継続改善	・ISO14001の継続運用。 ・月別のエネルギー使用量、CO2排出量を算出し、毎月の環境保全委員会にて各職場に共有。
省エネルギーの推進	・老朽化且つ非効率な空調機/圧縮機等の更新 ・昼休憩時の照明OFF ・月1回のNo残業デーの設定	・エネルギー使用量の削減	・エアコン（R22使用機種）の更新を実施。 ・照明のLED化を実施。 ・休憩時間中（12:00～13:00）の事務所照明をOFF。 ・月1回のNo残業デーの遵守。
工場等の製造工程における対策	・エア漏れ箇所の撲滅 ・蒸気漏れ箇所の撲滅	・製造工程におけるエネルギーロスの削減	・エア漏れ確認巡回の継続。 ・蒸気漏れ確認巡回の継続。
廃棄物の排出抑制等	・帳票の電子化 ・植物性残渣のリサイクル率100%の維持 ・包材歩留改善による廃プラ排出量の低減	・省資源、リサイクル率の改善	・製造ロスを低減し、植物性残渣の排出量を抑制。 ・現場の設備点検帳票の一部電子化を継続。
環境教育	・社員、従業員への定期的な環境教育の実施 ・全従業員からの環境に関する提案制度の実施 ・環境情報発信	・従業員の環境意識向上	・ISO14001内部監査員資格取得の推進。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・環境法令の遵守状況の確認を実施 ・環境意識啓蒙のための環境資料の掲示等
--